

第3章

第5次計画の基本理念と施策の方向性

1 計画の基本的な考え方

(1) 基本理念

読書を通じて得られる感動や新しい世界との出会いは、子どもにとって“かけがえのない一冊”との出会いとなり、その体験が健やかな成長につながります。こうした読書体験の積み重ねは、世代を超えた読書活動の循環を生み出すことが期待され、すべての子どもが読書の恩恵を受けられるよう、社会全体での推進が求められます。読書の継続により「読む力」「考える力」「感性」「表現力」「コミュニケーション力」が育まれます。また、子どもの発達段階や生活のあらゆる場面において、周囲の大人が「子どもと本をつなぐ」役割を担うことへの認識も大切です。

現代社会の急速な変化の中で、子どもが自らの可能性を認識し、他者を尊重しながら協働し、持続可能な社会の創り手となる力を育むことが求められています。

その基盤として、読解力・想像力・思考力・表現力等を養う読書活動の推進が大切になります。読書は知識や文化理解を深め、学ぶ楽しさや探究心を育むとともに、読むこと自体の充実感が生涯にわたる学習意欲やウェルビーイングにつながります。

子どもの読書に関するこのような基本認識は、平成18年度の第1次計画の開始から約20年を迎える今日でも、変わるものではありません。本市は、第1次から第4次計画における基本的な考え方を踏襲した上で、引き続き、

すべての子どもが本に親しむことができるまち ふじさわ

をこの計画の「基本理念」として掲げます。

また、この基本理念のもと計画を推進するために、

- ・子どもの読書活動推進の中心的な役割を担う地域の図書館・図書室や学校の図書館（図書室）の充実に努める
- ・家庭や地域を含めた社会全体が協力や連携して計画を進める
- ・大人は子どもの自発的な読書を見守り、子どもたちが自ら本の楽しさを発見できる環境づくりに努める

この3点の考え方を基本とします。



(2) 計画推進のための目標

第5次計画では、第4次計画における4つの「目標」を踏襲し、引き続き、地域一体となって基本理念の実現に向けて取り組んでいきます。

- 1 すべての子どもを「読書」の楽しさへ誘う
- 2 子どもの「読む力」を育み、伸ばす
- 3 地域のちからをつなげる
- 4 みんなで子どもの「読書」を見守る

【目標1】すべての子どもを「読書」の楽しさへ誘う

子どもが自主的に読書の楽しさを発見できるよう、発達段階や個々の状況に応じた支援を行います。ブックスタート事業やおはなし会等を推進し、保健事業との連携による読書活動の充実を図ります。さらに、学校・図書館・地域施設を活用し、身近な読書環境の整備に努めます。

●乳幼児期の子どもを「読書」の楽しさへ誘う

乳幼児期は、読書への第一歩となる大切な時期です。子どもが保護者の声やぬくもりを感じながら本に親しむことは、安心感や言葉への興味を育み、将来の読書活動の基盤となります。ブックスタート事業や乳幼児向けおはなし会等を通して、子どもと保護者が一緒に絵本や紙芝居、わらべうた等を楽しむ機会を広げます。

また、保健事業等、関係機関との連携を深め、家庭や地域の中で自然に読書が育まれるよう支援します。

●小学生期・中学生期・高校生期の子どもを、様々な場で「読書」の楽しさへ誘う

成長段階に応じて、子どもが本と出会う場を広げていくことが大切です。学校や地域の図書館・図書室はもとより、放課後児童クラブや青少年施設等、子どもが身近に本に触れられる機会を充実させます。

また、読書の喜びを共有できる環境を整え、子どもが自らの興味や関心に応じて読書を楽しみ、学びを深められるよう支援します。



【目標2】子どもの「読む力」を育み、伸ばす

子どもが読書習慣を身につけ、生涯にわたり読書を継続できるよう、学校及び学校の図書館（図書室）において取組を推進します。学校図書館専門員の全校配置により環境整備を進めており、今後も人材や運営体制の検討、地域の図書館・図書室との連携強化に努めます。

●学校教育における読書活動によって、「読む力」を育み、伸ばす

学校は、家庭と並んで子どもにとって日々の生活の中心となる場です。授業や学校生活の様々な場面を通して、子どもが本に親しみ、言葉や表現の力を身につけていくことができるようにします。

●学校の図書館（図書室）の充実によって、「読む力」を育み、伸ばす

学校の図書館（図書室）は、子どもが自ら本を選び、学びを深める拠点です。市内全ての小・中学校に配置された学校図書館専門員を中心に、学校の図書館（図書室）の活用をさらに進めていきます。また、地域の図書館・図書室との連携や、学校の図書館（図書室）担当者との情報共有を通して、より身近で魅力ある学校の図書館（図書室）づくりを進めます。子どもたちが本を通して思考を深め、自ら学ぶ力を育めるよう、環境と体制の充実を図ります。

●家庭、学校、地域、専門・関係機関が連携しながら、読書を通して子どもの「読む力」を育み、学ぶ意欲と豊かな心を育てます。

【目標3】地域のちからをつなげる

子どもが自主的に読書に親しむためには、身近な場所で本と出会える環境整備が重要です。家庭、学校、地域、専門・関係機関が連携し、地域の図書館・図書室の充実や情報発信機能の強化、サービスの検討を進めます。ボランティアや関係施設との連携を深め、読書機会の拡充と支援に努めます。

●地域の図書館・図書室と利用者をつなげる

地域の図書館・図書室は、地域における読書活動推進の中心的な拠点です。図書資料の充実や情報発信機能の強化を進め、すべての子どもが身近に本と出会える環境づくりを進めます。また、年齢や状況に応じた多様なサービスの提供を検討し、誰もが安心して利用できる地域の図書館・図書室を目指します。さらに、子どもと本とをつなぐボランティアや関係施設との連携を深め、地域に根ざした読書活動を支えます。



●子どもに関わる施設・団体等をつなげる

子どもが読書に親しむためには、学校や図書館だけでなく、地域の様々な人や場とのつながりが大切です。児童館、放課後児童クラブ、青少年施設等、子どもに関わる多様な機関が互いに連携し合い、読書活動の輪を広げます。地域全体が協力し合い、すべての子どもに読書の機会が行き届くよう取組を進めます。

●子どもと読書に関わる人のちからをつなげる

子どもが本の楽しさを知るきっかけは、本を手渡してくれる大人の存在です。本市では、子どもの読書活動を支える多くのボランティアが活躍しています。こうした市民の力がより発揮されるよう、ボランティアの育成や活動の支援を進め、関係機関との協働を一層深めます。大人たちが共に支え合うことで、地域全体で子どもの読書を育む風土をつくれます。

【目標4】 みんなで子どもの「読書」を見守る

地域全体で子どもが本に親しむ環境を整えるため、市民の読書活動を支援し、世代を超えた講座等を通じて読書の楽しさを伝える取組を推進します。学校や地域施設と連携し、協議・情報交換を通じて柔軟な推進体制の構築に努めます。

●地域のみんなが本に親しみ、子どもの読書を見守る

子どもが本を好きになるきっかけは、身近な大人の姿にあります。保護者をはじめ、地域の人々が本を楽しむ姿を見せることで、子どもは自然に読書への関心を育みます。そのために、世代を問わず読書に親しむことができる講座や場づくりを進め、地域の大人たちが読書を通してつながり、子どもの読書をあたたかく見守る環境を整えます。

●効果的な推進体制で子どもの読書を見守る

子どもの読書活動を持続的に推進していくためには、社会の変化に柔軟に対応できる体制づくりが必要です。学校や地域の子どもの関わる施設・団体、ボランティア等との協働体制を強化し、情報共有や意見交換を重ねながら、計画の着実な推進を図ります。こうした連携を通じて、地域全体で子どもの読書を支え、見守る仕組みを育てていきます。

この目標に基づき、市民への周知と共感の広がりに努めるために、第3次計画から引き続き、このキャッチフレーズを掲げていきます。

みんなで伝えよう 読む楽しさ
みんなで育もう 読む力
みんなで見守ろう 子どもの読書

2 計画推進のためのそれぞれの役割

子どもの日常的な生活の場「家庭」「学校」「地域」及び「専門・関係機関」が取組を効果的に行うため、それぞれの連携を深め、子どもの読書活動を推進します。

(1) 家庭

家庭は、子どもにとって最も身近で、心を育てる生活の場です。子どもは家族との関わりの中で、言葉や感情、思いやり等、様々な力を身につけていきます。家庭では、発達段階に応じた関わりを大切にしながら、本を読む楽しさや喜び、感動を共に味わうことが大切です。家族が読書を自然に楽しむ姿を見せることは、子どもにとって本への関心を育む大きなきっかけになります。そのために、家庭では次のようなことを意識してみましょう。

○乳児期の子どもは、ぬくもりを感じながら、やさしい声をかけてもらうのが大好きです。目と目を合わせ、子どものしぐさや表情に合わせて、ゆっくりと語りかけてあげましょう。わらべうたや絵本を通して語りかけることも、言葉への関心を育てる良い機会になります。

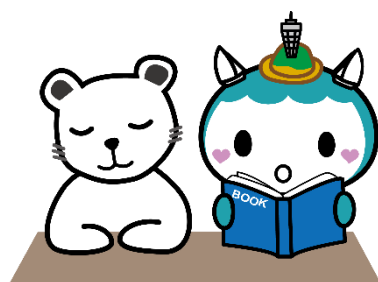
○幼児期には、子どもと一緒に楽しみながら絵本を読む時間が、心の成長を支えます。子どもは繰り返しが好きです。気に入った絵本や好きな場面は、何度でも読んであげましょう。その時間が、親子の信頼関係を育み、言葉や表現への興味を広げていきます。

○小学校低学年になると、自分ひとりでも読めるようになりますが、まだまだ読み聞かせも大切な時期です。一緒に本の世界を味わい、感じたことを話し合うことで、読書の楽しさがより深まります。子どもの反応を急がず、ゆっくり受け止めてあげましょう。

○小学校高学年になると、興味や関心が広がり、読む本の世界もぐんと広がります。子どもが自分で本を選び、読む楽しさを体感できる環境づくりを心がけてあげるとよいでしょう。周囲の大人が読書の魅力を語ることも、よい刺激になります。

○中学生期・高校生期は、生活環境や人間関係が大きく変化し、関心の幅も広がります。読書を強制したり干渉したりせず、自由に本に触れる時間を見守ることが大切です。必要なときには、そっと寄り添い、その子に合った本との出会いを支えてあげましょう。

○ブックリストや図書館の情報を活用し、おはなし会や講演会等にも関心をもって参加してみましょう。幼いころから地域の図書館・図書室と一緒に通い、本に親しむ時間をもつことで、子どもが読書を身近に感じられるようになります。家庭でも、読書の時間や「読書の日」を設けて、家族みんなで本に親しむ時間を大切にしましょう。



(2) 学校

学校は、家庭と並んで子どもにとって日々の生活の中心となる場です。同じ年頃の友だちと過ごす学校では、発達段階に応じた本を共に読み、感じたことを共有することで、読書の喜びや共感を広げることができます。学校では、子どもの年齢や発達に合った読書環境を整え、一人ひとりが読書を通して学びを深め、心を育てられるよう取り組みます。

○学校の図書館（図書室）は、学校における読書センターや学習・情報センターとしての機能を担い、児童生徒の自由な読書を支える場であるとともに、安心して過ごせる「居場所」としての役割も果たします。魅力ある蔵書や空間づくりに工夫を凝らし、子どもの多様な興味や関心に応えられるよう環境の充実を図ります。

○司書教諭や学校図書館専門員、ボランティア等が協力し合い、常に子どもに寄り添う学校の図書館（図書室）運営を進めます。

○教職員を対象とした研修や意見交換の機会を設け、読書活動の意義や支援方法への理解を深めながら、学校全体で子どもの読書を支える体制を築きます。



(3) 地域

地域で暮らす一人ひとりの市民は、子どもの読書活動を理解し、家庭、学校、専門・関係機関とともに支えていく大切な役割を担っています。地域には、地域の図書館・図書室をはじめ、幼稚園や保育所、市民センター、地域子どもの家、児童館等、子どもの成長を見守る多くの施設や活動があります。

また、地域家庭文庫^{※19}や子育て支援団体等が行う取組も、子どもが本に触れ、学びや喜びを広げる大切な場となっています。こうした地域の様々な施設や人々が互いに連携し、子どもが日常生活の中で本と自然に出会える環境を整えることが大切です。それぞれの施設や団体が持つ特長や強みを生かし、地域ぐるみで子どもの読書を支える輪を広げていきます。

○幼稚園や保育所等では、子どもが絵本や言葉と出会う大切な時期を過ごします。発達段階に合った絵本との出会いを通して、読書の楽しさを感じられるよう、地域のボランティアによる読み聞かせやおはなし会等と連携しながら、日常的に本に触れる機会を大切にします。

○園内での読書活動が家庭での読書へとつながるよう、保護者への絵本紹介等を通して、家庭と園が一体となった読書の環境づくりを支援します。

○地域の子どもに関わる施設・団体では、団体貸出^{※20}や「絵本コーナー」の充実等、地域の図書館・図書室との協力を深め、子どもが自然に本へ手を伸ばせる環境づくりを進めます。

○地域で活動する読み聞かせボランティアをはじめ、子どもに関わる様々な団体や施設において、子どもの読書活動への理解と関心を深め、協力しながら環境づくりを進めます。それぞれの活動の中で、子どもが自ら本に親しみ、読書の楽しさを感じられるような機会を大切にします。

○地域社会全体が子どもの読書活動の意義や大切さを共有できるよう、関係する人や団体への周知や情報発信を充実させます。

○地域で活動する団体や施設が互いに連携し、社会全体で子どもの読書を支える取組の輪を広げていくことで、子どもの成長を多面的に支える読書環境を築いていきます。



※19 個人やグループが自宅を開放する等、地域の施設の集会所等を利用して児童書を貸し出す活動のことです。子どもを対象に図書の閲覧や貸出を行うほか、おはなし会や読み聞かせを行う文庫もあります。

※20 団体貸出：学校・保育園・幼稚園・高齢者施設などを対象に、まとめて本を貸出する制度です。最大1か月、100冊まで貸出することができます。

(4) 専門・関係機関

子どもの読書活動を総合的・体系的に推進するため、関連施設と連携し読書環境の整備や充実を進めます。子どもの読書を取り巻く社会の変化や新たな課題に的確に対応できるよう、情報収集や関係者間の連携を深め、必要な支援や施策の充実を図ります。こうした取組を通じて、すべての子どもが本と出会い、読書を楽しむことができる環境を育てていきます。

- 社会全体や市民一人ひとりが子どもの読書活動に関心をもち、その意義を理解できるよう、様々な機会を通じて啓発や情報発信を行います。あわせて、市民や関係者による読書活動の支援を進め、地域全体で子どもの読書を育む環境を整えます。
- 地域の図書館・図書室や学校の図書館（図書室）等、読書に関わる施設の機能が十分に発揮できるよう、施設環境の整備や運営体制の強化、各施設間の連携を進めます。
- 情報の収集と発信を充実させ、子どもに関わる関係機関や団体との協働を深めます。
- 子ども読書活動推進会議等を通じて、教育・子育て支援・青少年育成・母子保健等の関連施策と横断的に連携し、一体的で効果的な取組を進めます。
- また、子どもの読書活動を支えるボランティアの存在を大切にし、その活動や研修の機会を支援します。庁内の関係部署や施設においては、ボランティアを受け入れやすい体制づくりを整え、協働による読書推進を進めます。
- 地域の様々な施設で、子どもが本と出会い、読書の相談や情報交換ができる環境を整備し、子どもや保護者が気軽に本に親しめる場を広げていきます。



3 施策の体系

第5次計画では、第1次計画から第4次計画で掲げた基本理念及び目標を継承しつつ、これまでの取組を精査し、事業の重複や目的の共通するものを整理しました。その上で、子どもを取り巻く社会状況の変化や国・県の動向を踏まえ、本市の子ども読書活動推進に向けた関連施策を次のとおり体系化しています。この体系を基盤として、行政内部の連携を強化するとともに、家庭、学校、地域、専門・関係機関が協働して子どもの読書活動を支援していきます。

<基本理念>

すべての子どもが本に親しむことができるまち ふじさわ

<目標>

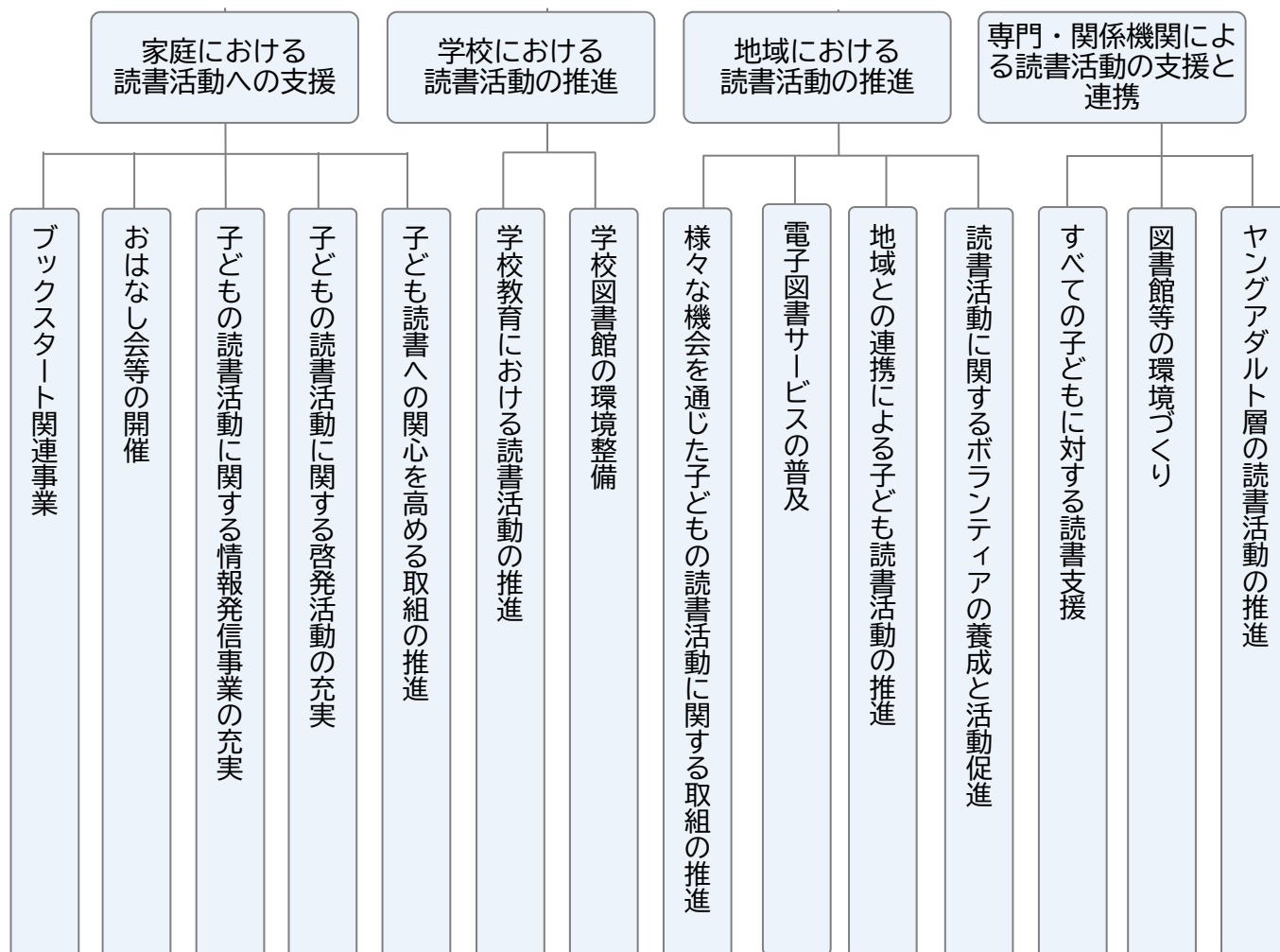
1 すべての子どもを
「読書」の
楽しさへ誘う

2 子どもの
「読む力」を
育み、伸ばす

3 地域のちからを
つなげる

4 みんなで子どもの
「読書」を
見守る

<施策の展開>



4 施策の体系イメージ

すべての子どもが本に親しむことが できるまち ふじさわ

目標1

すべての子どもを
「読書」の楽しさへ誘う

目標4

みんなで子どもの
「読書」を見守る

目標2

子どもの「読む力」を
育み、伸ばす

目標3

地域のちからを
つなげる

- ・ブックスタート関連事業
- ・おはなし会等の開催
- ・子どもの読書活動に関する情報発信事業の充実
- ・子どもの読書活動に関する啓発活動の充実
- ・子ども読書への関心を高める取組の推進

家庭

における
読書活動への支援

- ・学校教育における読書活動の推進
- ・学校図書館の環境整備

学校

における
読書活動の推進

- ・すべての子どもに対する読書支援
- ・図書館等の環境づくり
- ・ヤングアダルト層の読書活動の推進

専門・関係機関
による読書活動の
支援と連携

- ・様々な機会を通じた子どもの読書活動に関する取組の推進
- ・電子図書サービスの普及
- ・地域との連携による子ども読書活動の推進
- ・読書活動に関するボランティアの養成と活動促進

地域

における
読書活動の推進